

第三次十日町市総合計画 基本構想（案）に対する審議会委員の意見集約表

No.	箇所	項目	意見者	委員の意見	答申への搭載	答申箇所	答申内容
1	全体	全体	川崎委員	こどもへの配慮と言いますか、大事にしていくというのが国全体の動きとしてあるのだと思います。こうしたことを踏まえ、 市民の方に、特に若い人に分かりやすい表現を心掛けていただきたい と思います。若者が計画を見て、「なるほど」となればすごいと思います。是非、分かりやすい表現の一つでも二つでも心掛けていただきたい。	○	①	あらゆる読み手に分かりやすい表現を使用し、計画を策定していただきたい。
2	全体	全体	根津委員	目指すまちの姿が、「雪と生きる。」「大地に遊ぶ。」です。雪と生きるということ、地域の資源として楽しむ雪というところが欠けているような気がします。また、「大地に遊ぶ。」とありますから、大地の芸術祭だけで良いのか、そのところが、 せっかく目指すまちの姿が最初に出てくるのに、それがあまり感じられないような気がします。 例えば、魅力ある教育活動の推進の辺りに、資源としての十日町の雪は素晴らしい、遊ぶということなどを入れていただくと、この目指すまちの姿に繋がるのではと思います。基本方針2、3、4もありますので、この後の未来を創造するという表現もそうですが、 目指すまちの姿を意識して、施策の方針に入れていただけるとありがたい です。	○	②	目指すまちの姿「雪と生きる。大地に遊ぶ。未来を創造するまち とおかまち」を感じられるよう、各所に目指すまちの姿を意識した表現を加えていただきたい。
3	序論 第3章 十日町市を取り巻く社会潮流と課題	3 人口減少と少子高齢化の進行	井口委員	「若者世代の転出抑制」とありますが、高学歴化の中、若者の多くが進学により市外へ流出している現状があります。転出理由に「就職」を理由としたものもあるとは思いますが、高卒で市外、県外へ就職する者はごく限られており、現実的には学生は社会的自立をしていないため、実家（親元）に住民票を置いたまま市外、県外の大学等へ進学し、卒業後の「就職」という社会的自立をもって住民票異動を行っているのが実情と思います。 「若者の転出抑制」とすると、大学等への進学を抑止するという理解になってしまうのではないのでしょうか。むしろ市内出身学生に卒業・就職を機に地元へ帰ってきてもう「Uターン施策」が必要であると思います。	○	③-1	「若者世代の転出抑制」が大学等への進学を抑止するという理解にならないよう文言を検討いただきたい。
4						③-2	Uターン施策や十日町市に居続けたいと思える施策を追記いただきたい。
5			根津委員	転出抑制について、少し対策的なものが入ってほしい と思います。仕事がないので、子供たちは大学を卒業しても帰ってくることができないというのが大きな人口減少に繋がっていると考えます。ですので、このところを少し検討いただきたいと思います。	○	③-2	Uターン施策や十日町市に居続けたいと思える施策を追記いただきたい。
6		4 多様な人材の確保・活用	宮澤委員	地域に根付く、ここに居続けられる環境を作っていくための施策をしっかりと記載する必要がある と考えます。また、 向こう10年減る一方ですということだけで良いのかどうか、検討いただきたい と思います。	○	③-2	Uターン施策や十日町市に居続けたいと思える施策を追記いただきたい。
7						④	人口の減少だけの記載でなく、減少幅を抑えることなどの記載を検討いただきたい。
8			井口委員	多様な人材の活用として 「外国人労働者の受け入れ」が先頭にあり、「女性・高齢者の労働参加」が後になっています。市民感情的には順番が逆である と思います。市民の方が働き、また働く意欲を持っている女性や高齢者の労働参加の促進をしっかり行っただうで、不足する分のところは外国人労働者を受け入れていくという考え方が筋であると思います。	○	⑤	「女性・高齢者の労働参加」、「外国人労働者の受け入れ」の順に文章を再考いただきたい。また、障がい者やひとり親世帯、介護を抱えている世帯など働くことに制約がある方を受け入れ、地域の労働力を確保することを追記いただきたい。
9				佐野委員			
10		6 働き方・暮らし方の多様化	根津委員	二地域居住の促進とありますが、 住所地以外に継続的に関わる地域を登録できる「ふるさと住民登録制度」が国で検討されていますので、そのところに関連しながらやっていければ良い と考えます。	○	⑦	二地域居住の促進に関連した施策を基本計画の中で検討いただきたい。
11	基本構想 第2章 まちづくりの方針	基本方針2 活力ある元気なまちづくり （2）活力ある農林業と魅力的な里山のあるまち	福嶋委員	国では、AI、スマート農業など、次世代農業を進めていますので、若い方が農業を始めるには必要なことであると思います。しかし、農業を支える方は年配が多く、今後皆が同じように年を取っていきます。 デジタルを使いこなせない方も農業では多いので、使いこなせるよう、講習会や講義という施策を盛り込んでいただきたい。	○	⑧-1	多くの農業者がスマート農業を実践できるような施策を基本計画の中で検討いただきたい。
12				山間地では、 クマ、イノシシ、シカなどが出ると観光としても影響がありますので、山林の整備の記載があると良い と思います。観光にも農業にも住民のくらしにも必要と考えます。	○	⑧-2	鳥獣対策としての山林の整備に係る施策を基本計画の中で検討いただきたい。
13	基本構想	全体			十日町総合高校の生徒はわりと 地元に残りたいと希望する 方が多かったです。こうした 生徒が地元に残れるようなものが、この基本構想にあると良い と思いました。	○	③-2

No.	箇所	項目	意見者	委員の意見	答申への 掲載	答申箇所	答申内容
14	基本構想 第2章 まちづくり の方針	基本方針3 安全・安心なまちづくり （4） 雪とともに 生きるまち	佐野委員	人口減少の一番の要因は十日町の豪雪という地勢にあるのではないかと考えています。その中で、 この二つの項目でそれに対する考え方が整理されていますが、テーマに対しては物足りない気がしています 。産業にとっても雪というのは会社の経費を大きくし、競争力が削がれる大きな要因となります。例えば、十日町の田川から川治川の間、都市計画エリアでここは深井戸規制があり、井戸を掘りたくても20m以上の井戸は掘れなく、水による雪の処理ができない地区になっています。この深井戸規制の関する見直し、安心して生活できる除雪体制が重要であると考えます。十日町市の除雪の技術は高いと思いますが、除雪の業者が見つからないという現状もあります。 雪は資源でもあり、十日町市の大きな魅力でもあります、生活する企業活動を行う者にとっては大きな負担になっています。もう少しこのことを深く記載いただければと思います。	○	⑨	雪は資源・魅力である一方で、企業活動を行う者にとっては大きな負担となっているため、政策「雪とともに生きるまち」では、これらのことを踏まえて記載いただきたい。
15		重点戦略3	井口委員	まちづくりの方針を見ると、 働き方の多様化、柔軟な働き方の受入れなどの施策が入っていないと感じました。多様な働き方を企業からも柔軟に受け入れていただくことも検討する必要があると思います 。例えば「稼ぐ力のある産業を育てる」の戦略3の28ページのあたりに、 多様な働き方の醸成のような施策的なことを入れていただけると良い と思います。	○	⑩	企業から多様な働き方を柔軟に受け入れていただくことも検討する必要があるため、「多様な働き方の醸成」についての記載を検討いただきたい。
16		重点戦略4		今の若い方の働き方に対する概念が相当違っています。 テレワークが発達する中で、時間的な拘束などではなく、自由な時間に働きたいというニーズがあります。そうした働き方を受容することによって、若者や女性からも選ばれやすくなるということになると思いますので、柔軟な働き方という視点の施策があると良い と思いました。	○	⑪	若者や女性からも選ばれるまちとなるよう、若者のニーズに沿った柔軟な働き方という視点の施策を基本計画の中で検討いただきたい。
17	基本構想	全体	穴戸会長	総合計画と重点戦略の関係を、マトリックス表のような縦串と横串の表を加えられると市民の方も理解しやすいと思います。	—	—	※助言であるため、答申書には反映しませんが、基本構想に表を追記いたします。